

そらんぽへ行こう

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

プラネタリウムで 天文^{がく}を楽しませんか

皆さんは、夜空の星などを観察する観望会に参加したことがありますか。夜空を見上げるひとときは、こどもから大人まで心に残る体験です。季節の星座を見つけたり、望遠鏡で月や惑星をのぞいたりすることで、宇宙はぐっと身近になります。近年は、こうした観望会が各地で開催され、多くの人が星空に親しむ機会が増えています。

こうした観望会の最前線で活躍しているのが、インター^{そらん}宙^ぽレーションの代表で、(株)INTO-ARCSの三浦^{ひびき}飛^み未来^{みらい}さんです。各地で活動し、地域や教育現場と結びついた天文普



宮城県気仙沼市で開催した観望会（三浦さん提供）

及に取り組んでいます。

プラネタリウムでは、6月13日(土)に三浦さんを招き、「星空をもっと身近に一観望会で広がる天文の世界―」をテーマとした宇宙塾を開催します。当日は、観望会の経験をもとに、星空が人と地域を結びつける力を紹介していただきます。プラネタリウム空間を生かしながら、星や星空の楽しみ方について、望遠鏡を使った実演も交えてお話しいただく予定です。ぜひプラネタリウムでお楽しみください。



文化財さんぽ

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

午^{うま}起^{おこし}海岸の昔と今

工場の明かりが織りなす幻想的な夜景が有名な四日市。第2コンビナートのある現在の橋北地区では、特に大正橋からの眺めが圧巻です。

しかし、この場所がかつて「午起海岸」という美しい^{なぎさ}渚^{なぎさ}だったことをご存じでしょうか。三滝川河口から海蔵川河口にかけて、海岸堤防に松並木が広がる砂浜でした。海水浴を楽しむ多くの人でにぎわい、大正時代後半に海水浴場として本格的に整備されました。

昭和に入ると臨時の午起駅が開設され、遠方からも多くの海水浴客が訪れ、北勢地方を



昭和11年発行『新興の四日市』

代表する名所となりました。その人気ぶりは四日市名勝として絵葉書になったほどです。

昭和11(1936)年に市が発行したパンフレット『新興の四日市』では、「午起海岸は本市三瀧川以北の海濱^{はくしゃせいしゅうみずきよ}で白砂青松水清く波静^{なみしずか}に、且遠浅^{とほあさ}なるがために理想的海水浴場として近年浴客遠近より蟻集^{いしゅう}す(原文ママ)」と紹介されています。

時代の移り変わりとともに姿を変えてきた四日市の風景。かつての姿を知ると、目の前に広がる現在の景色も、また少し違った印象で見えてくるのではないのでしょうか。

※多くの物が1カ所に集まること